

6 相談支援及び情報提供

現状と課題

■がん相談支援センターの相談支援について

拠点病院等・支援病院には、「がん相談支援センター」が設置されており、規定の研修を修了した看護師や医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）ががんに関する相談に対応しています（図 6-1）。

がん相談支援センターの相談件数は年々増加していますが、がん相談支援センターを「利用したことがある」と回答した患者の割合は9.4%でした（図 6-2、図 6-3）。

外来初診時から治療開始までを目処に、がん患者及びその家族が必ず一度はがん相談支援センターを訪問することができる体制を整備することとされており、がん患者が必要に応じて確実に支援がうけられるよう、拠点病院等・支援病院では、主治医等による患者へのがん相談支援センターの周知や院内での広報を行っています。

がん患者や家族の相談支援に関するニーズは多岐に渡っており、さらなる相談支援の質の向上が必要です。

図 6-1 奈良県のがん相談支援センター・がん患者サロンの設置状況

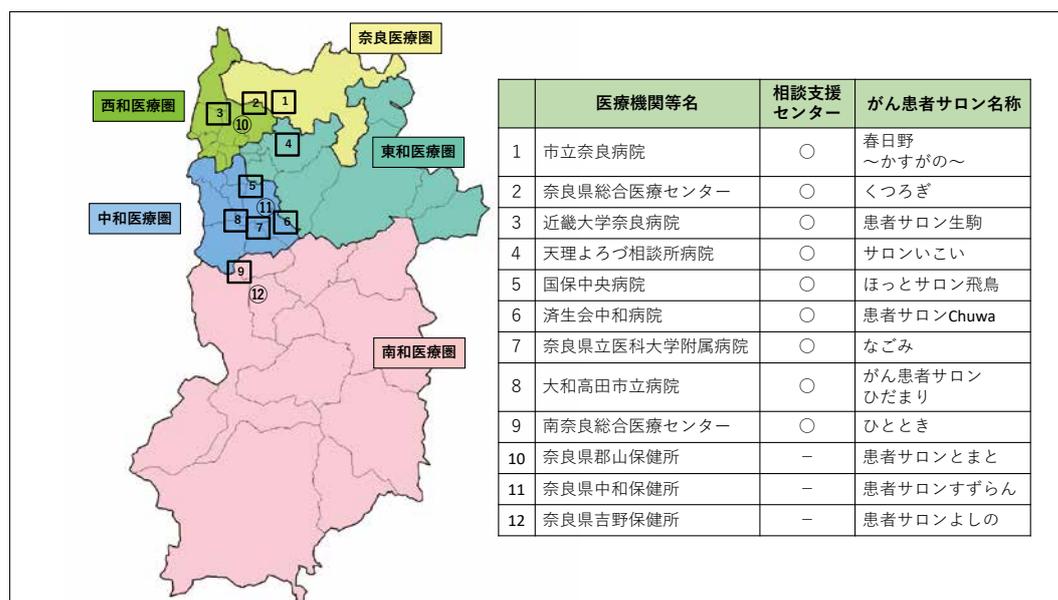


図 6-2 がん相談支援センター相談件数

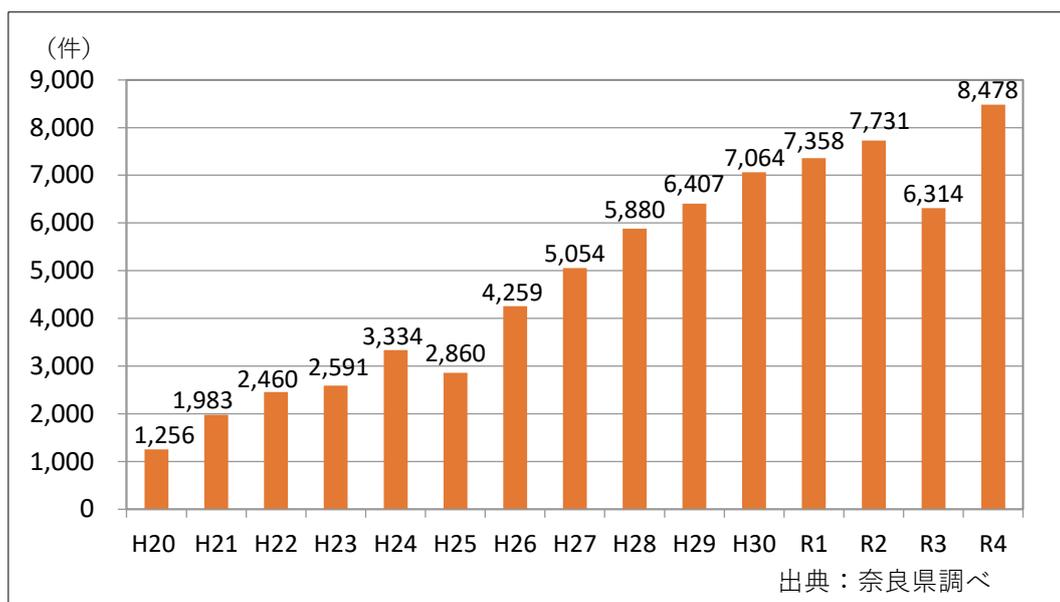
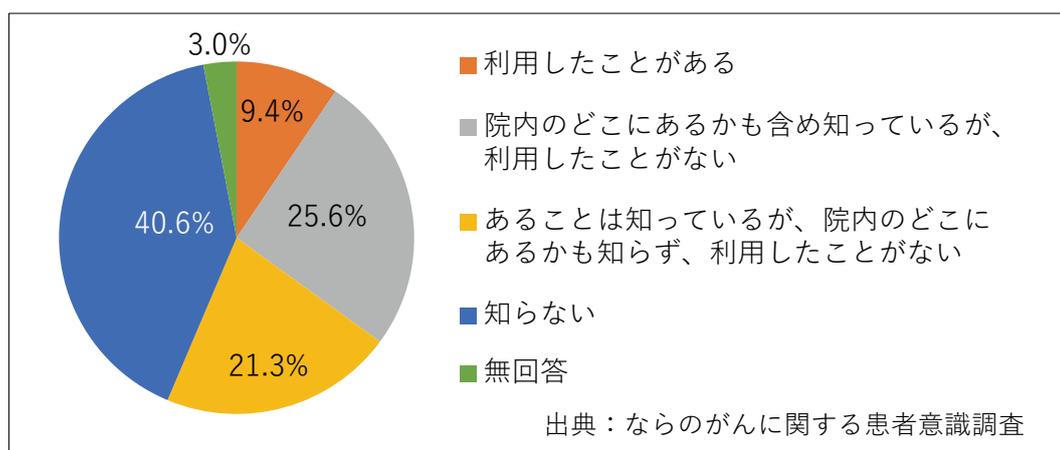


図 6-3 がん相談支援センターの利用の有無（令和3年度）



■小児・AYA 世代、家族支援について

小児世代は、発育途中であることから成長や時間の経過に伴って生じる成長発達への影響や治療の影響による晩期合併症が起こることがあり、身体的な苦痛のみならず不安や悩み、社会的苦痛を感じる場合があります。それらを定期的に評価し、適切な医療介入や相談支援を確実に受けられるように、奈良県立医科大学附属病院において看護師による面談と医師の診察からなる「長期フォローアップ外来」を開設して、小児がん経験者への情報提供および相談支援や成人診療科へのスムーズな連携を図っています。

また、小児・AYA 世代は、就園・就学・就職・結婚・出産・子育てといったライフステージに応じたニーズや課題があり、個々の患者に応じた相談支援が求められます。

小児世代のがん患者は患者数が少なく、孤立しやすいため、悩みや不安を相談できるよう、患者同士の情報交換の場が必要です。

■高齢者の相談支援について

高齢者は、複数の慢性疾患を有している場合や、介護事業所等に入居している場合など、それぞれの状況に応じて適切な意思決定に基づき、治療を受けられるように支援することが必要です。高齢のがん患者やその家族の意思決定に関わる支援のあり方について検討を進めています。

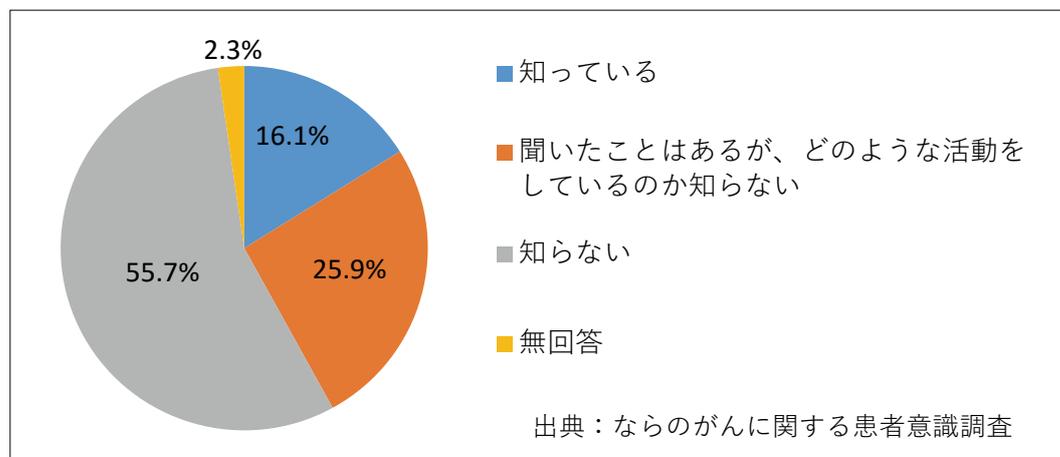
■がん患者サロンについて

拠点病院等・支援病院と県保健所の計 12 か所には、「がん患者サロン」が設置されており、患者同士の交流の場を提供しています。

がん患者サロンを「知っている」と回答した患者の割合は 16.1%でした（図 6-4）。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのがん患者サロンが中止され、利用者数は減少しましたが、令和 5（2023）年度からは再開されています（図 6-5）。このことから、がん患者サロンの利用者が増加するよう更なる周知が必要です。

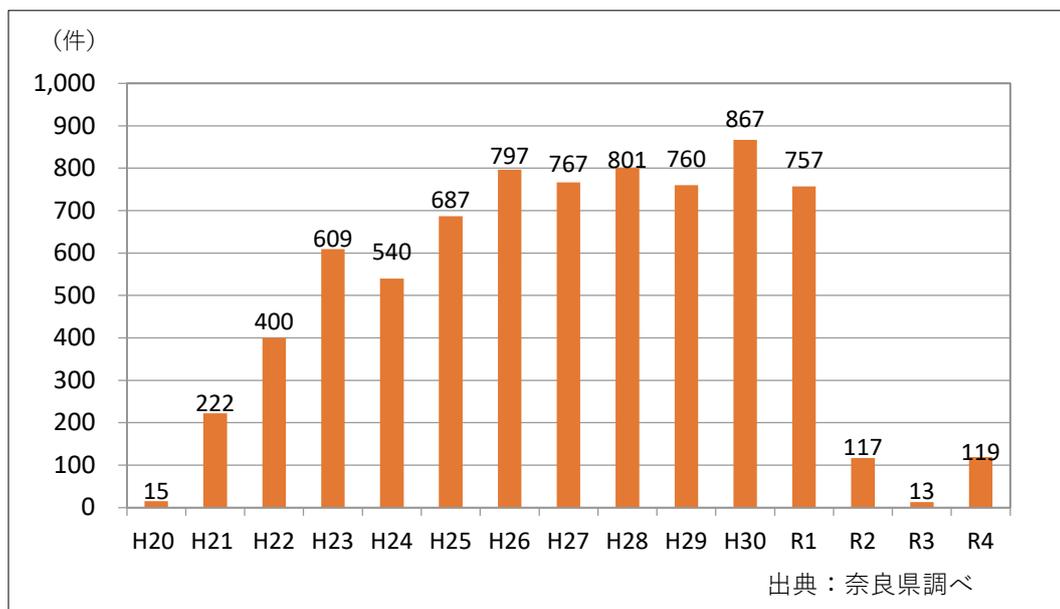
拠点病院等・支援病院では、ピア・サポーター^{*18}と定期的に運営者会議を実施しており、また、奈良県がん診療連携協議会の相談支援分科会で病院同士の情報共有及び検討を実施するなど、効果的なサロン運営を進めています。しかしながら、ピア・サポーターの高齢化や体調不良により、登録者数が減少し、がん患者サロンで活動するピア・サポーターが固定化されています。今後、定期的にピア・サポーターを養成するとともに、更なる実践的な学びができるようピア・サポーターフォローアップ研修を継続していくことが必要です。

図 6-4 がん患者サロンの認知度（令和 3 年度）



ピア・サポーター^{*18}…患者や家族の療養上の問題や心の悩みなどに対し、自らの体験に基づく支援を行う者のこと。

図 6-5 がん患者サロン利用者数



■患者に必要ながんに関する情報について

平成 26 (2014) 年 3 月、「がんネットなら」を開設し、がんに関する情報を幅広く、県民やがん患者、医療関係者等に発信してきました。また、情報の分かりやすさと利便性を向上するため、令和元 (2019) 年度、「がんネットなら」の改修を行いました。一方で、インターネットで情報を収集できない患者のために「療養ガイド」を作成し、拠点病院等・支援病院で配布しています。治療や療養生活に必要な最新情報をタイムリーに提供することが必要です。

分野別目標

現状と課題を踏まえ、相談支援及び情報提供の分野別目標を以下のとおり設定しました。

【分野別目標】

分野別目標	指標	現状値 (基準値)	目標値
がん患者の不安や悩みが相談支援により軽減されている	からだや治療のことで心配になったとき、担当医以外にも相談できるところがある患者の割合	30.7	増加
	がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの相談支援によって軽減されたと思う患者の割合	39.3	増加

中間目標と個別施策

分野別目標を達成するために必要となる2つの中間目標を設定し、それぞれの中間目標を達成するために必要な個別施策を設定しました。

【中間目標 1】

中間目標	指標	現状値 (基準値)	目標値
質の高い相談支援を受けられる体制が整備されている	がん患者サロンの利用者数	119	増加
	がん相談支援センターでの新規相談件数	2,322	増加
	がん相談支援センターの利用者数	8,478	増加

【個別施策（相談支援機能の強化）】

① がん相談支援センターの利用促進と相談支援の質の向上

がん患者及びその家族が外来初診時から治療開始までにかん相談支援センターを利用できるよう努めるとともに、主治医等による患者へのかん相談支援センターの周知や院内での広報を行います。また、がん相談支援センターの相談員の研修を行い、相談員の資質向上のための取組を推進します。

【主な取組】

- ・拠点病院等・支援病院の院内での広報と主治医等による患者への周知
- ・院内職員に対するがん相談支援センターの周知
- ・がん相談支援センターと院内診療従事者の協働による、患者・家族ががん相談支援センターを訪問する仕組みの構築
- ・国立がん研究センター相談員指導者研修等の継続受講
- ・拠点病院等・支援病院による、相談員を対象とした研修会の実施
- ・がん相談支援センター利用者満足度調査の実施

② 小児・AYA 世代、家族支援体制の強化

小児・AYA 世代のがん患者やその家族等が適切な情報を得て悩みを相談できるよう取組を推進します。

【主な取組】

- ・若年世代に対するがん相談支援センター周知方法の検討
- ・奈良県立医科大学附属病院における長期フォローアップ外来の試験運用の実施
- ・小児・AYA 世代のがん患者のニーズの情報収集と交流の場の提供
- ・妊孕性温存相談窓口の設置
- ・啓発用リーフレットの作成・配布

③高齢者の状況に応じた相談支援体制の強化

高齢者の状況に応じた相談窓口及び意思決定支援が可能となるための方法を検討します。

【主な取組】

- ・高齢者特有のニーズに対応できる相談体制の整備
- ・意思決定に係る支援のあり方の検討

④がん患者サロンの充実・強化

拠点病院等・支援病院とピア・サポーターが連携し、がん患者サロンが充実するよう引き続き、体制を整えるとともに診断早期からがん患者サロンを利用できるよう周知を進めます。

【主な取組】

- ・ピア・サポーター、患者会との連携方法の検討
- ・がん患者サロンの開催
- ・がん診療連携協議会の相談支援分科会でがん患者サロンの情報共有、検討の実施
- ・拠点病院等・支援病院がピア・サポーターと連携した運営会議の実施
- ・がん患者サロンの利用者拡大のための周知
- ・国のピア・サポート活動実態調査や養成研修の見直し結果に基づいたピア・サポーターの養成
- ・がん患者団体の活動発表や情報交換の場の提供促進

【中間目標2】

中間目標	指標	現状値 (基準値)	目標値
がん患者やその家族が治療や相談について必要な情報提供を受けている	がん相談支援センターについて知っている患者の割合	56.3	増加
	がん患者サロンについて知っている患者の割合	42.0	増加
	「がんネットなら」について知っている患者の割合	9.1	増加
	「がんネットなら」のページビュー数	81,112	増加
	がんに関する情報が不十分であると思う患者の割合 ・治療方法 ・診療体制 ・治療費用 ・社会保障制度	27.4 21.1 40.5 40.6	減少

【個別施策（患者目線での情報提供の充実）】

① 患者に必要ながんに関する情報の見える化

患者やその家族等が、必要な時に正しい情報を入手し、適切な選択ができるよう取組を推進します。

【主な取組】

- ・ 診療実態データの把握・分析
- ・ 拠点病院等・支援病院が院内がん登録情報等を活用したがん診療情報等の公表
- ・ 実態把握のための「ならのがんに関する患者意識調査」等アンケート調査の継続実施
- ・ 最新情報の把握、とりまとめ

② 多様なツールを活用したがんに関する情報の周知強化

がんに関する情報をわかりやすくとりまとめ、「がんネットなら」や「療養ガイド」により情報提供するとともに、医療機関関係者等と連携した周知を強化します。

【主な取組】

- ・ 「がんネットなら」や「療養ガイド」、広報誌等での情報提供
- ・ 医療従事者を対象に「がんネットなら」等の情報の周知強化
- ・ 患者に必要な医療情報等を拠点病院等・支援病院と連携した、地域に向けての情報発信